

U28YOC 報告書

使用大会・事業名	U28 ヤングオフィシャルキャンプ 2019 (B.LEAGUE U15 FRIENDRY GAME)
参加期間	2019年1月4日(金)~1月5日(土)
報告者	慶野芽以 (栃木)
開催地	群馬県前橋市

概要 (会場、参加チーム、競技方法など)

会場：ヤマト市民体育館

参加チーム：B.LEAGUE U15 チーム (地元チームも含め、全 20 チーム)

競技方法：予選リーグ及び順位決定選

全ゲーム 8分(1Q)-1分-8分(4Q) ハーフゲーム

スケジュール

【1/4(金)】

8:30 集合・受付

9:00 開講式

9:10 講義①「インテグリティについて」

10:15 講義②3PO メカニクス

12:00 実技

14:45 講義③「FIBA/トップリーグレフリーの取り組み」

16:00 実技

【1/5(土)】

9:00 講義④映像検証 英語でのディスカッション

11:00 実技

16:00 閉講式 11:00 実技

終了・解散

同グループ審判(R)、担当インストラクター(IR)

役割	氏名	都道府県	役割	氏名	都道府県
IR	阿部 哲也	神奈川県	IR	宇田 川 貴 生	J B A
IR	前田 喜庸	東京都	R	太田 令 菜	大阪府
IR	加藤 誉樹	東京都	R	門脇 堯 洋	北海道
IR	有澤 重行	山口県	R	上阪 紘 也	東京都
IR	堀 内 純	愛媛県	R	高 崎 駿	福井県
IR	熊谷 久美子	青森県	R	中嶋 研 仁	岡山県
IR	福岡 敏徳	長崎県	R	岩瀬 寛 明	香川県
IR	上田 篤拓	J B A			

担当試合

試合日	カード 点数 <small>例) CAN 85-68 NGR</small>	会場	CC/U	パートナー <small>(CC/U、氏名、国名)</small>	試合雑感
1 / 4	横浜 32 - 33 ジョーカーズ	Bコート	CC	U1.太田令菜 / U2.門脇堯洋	
1 / 4	新潟 19 - 30 栃木	Cコート	U1	CC.岩瀬寛明 / U2.太田令菜	
1 / 4	地元 B - 島根	Dコート	U2	CC.中嶋研仁 / U1.岩瀬寛明	
1 / 4	新潟 19 - 30 新島中	Aコート	CC	U1.太田令菜 / U2.門脇、上阪	U2は1Q交代
1 / 5	栃木 51 - 41 福島	Aコート	U2	CC.岸本祥也 / U2.上阪紘也	
1 / 5	新島中 30-27 宝泉中	Cコート	U2	CC.渡辺淳 / U1.岸本祥也	

講義内容

【講義①インテグリティについて】 鈴木淳氏

「バスケットで日本を元気に」という JBA の理念を実現させるために、インテグリティの精神（誠実さ、真摯さ、高潔さ）を持って、「人間力・指導力・組織力」を高めることを目指すことが求められている。特に今回は「人間力」を高めるためにどのようなことを意識していくべきか、ヒントを頂くことができた講義だった。

※自分自身の価値を高めるためには学び続けることが必要。

⇒物ごとの枠組みを自分自身で変えていく（自分のプライドにしがみつかずに）。

学びの三原則「アウトプット・失敗体験・復習」。大人の学びは痛みを伴うが、それを乗り越えることが大切。

それを繰り返していくことで、学びを積み重ねていくことができる。

【講義②3PO メカニクス「Be in Charge」】 福岡敏徳氏、熊谷久美子氏、上田篤拓氏

審判の責任としての「プレイヤーファースト&ファンファースト」の考え方を抑えた上で、基本的な 3 PO メカニクス及び IOT について、パワーポイントや映像を用いて解説して頂いた。

【講義③FIBA/トップリングレフリーの取り組み】 加藤誉樹氏

プレゼンテーションの重要さや、FIBA レフリーの日ごろの取り組み等のお話を頂いた。

※プレゼンテーション＝TO レポートだけのことでなく、走り方、立ち方等のコート上での立ち振る舞いすべてを含むものであると改めて確認した。

【講義④映像検証 英語でのディスカッション】 有澤重行氏、堀内純氏、上田篤拓氏

英語のみを用いて、グループごとに課題映像に関するプレゼンテーション及びディスカッションを実施した。

ミーティングについて（共有事項、強調された点など）

【ゲーム後におけるミーティング】

- ・プライマリーの確認・理解（エリアやアングル）。プレイに対し、誰がプライマリーなのかを常に考える。
- ・TO（特にクロック類）の管理
- ・見栄え・立ち振る舞い。自分自身の見せ方
- ・C の判定への参加の仕方

全体の感想、提言、他県からの参加者から学んだこと、新たに確認した審判技術等について

今回の研修に参加させて頂き、全国から集まった仲間からたくさんの刺激を受けることができました。皆さんそれぞれが、自分のこだわりを強く持ってコートに立たれていたように感じます。自分のこだわりや信念をコートでどう表現し、どう伝えるべきなのか。私自身の課題でもありましたが、今回改めてその弱さを痛感しました。一つの笛、一つのレポート、細かいこと一つ一つに自分の思いを込めて、そしてゲームを通して信念を貫き通していけるよう、さらに意識していきたいと思えます。

また、今回新しくインテグリティに関する講義を聴講することができ、自分自身の成長のために今後どのような取り組みをしていかなければならないのかということも、改めて考えさせられました。成長していくには自分が自分自身を欠点も含めて理解し、受け入れることからまずスタートだということ。そしてそれを学び改めることへの痛みを恐れないこと。「自分」を持つ強さと謙虚さのバランスを大切にしつつ、そして、常に向上心を持って精進して参りたいと思えます。

最後に、本研修に参加させて頂くにあたり、日本バスケットボール協会の皆様、今回推薦して頂きました渡邊整関東ブロック長、渡邊諭審判長をはじめとする栃木県内の皆様、貴重なご指導を頂きました講師の皆様、会場準備等でお世話になりました群馬県の皆様、多くの方々のお力添えにより受講できましたことを心より感謝申し上げます。